

《報告》

実務者のための栄養管理プロセス研修会 合同研修会 報告

立花 詠子¹⁾ 畠山 桂吾²⁾ 塚原 丘美¹⁾

1. 研修会の目的

名古屋学芸大学管理栄養学部は2002年の開学以来、2,000名以上の卒業生を輩出し、医療機関へ就職した卒業生が多数存在している。その多くは様々な学会や研修会に参加して研鑽している。研究所でも、その一端となるような研修会を行っている。

令和2年度の診療報酬の改定により、病院管理栄養士の仕事の幅がさらに広がった。そこで、今年度は名古屋学芸大学管理栄養学部が主催する「実践栄養ケア研究会」との合同研修会とし、研修会のテーマを「近未来の管理栄養士像を考える」とした。1日目は「実践栄養ケア研究会」主催で病院勤務の卒業生と在学生在を対象に研修会を行った。2日目は「実務者のための栄養管理プロセス研修会」主催で病院勤務の方を対象とした研修会を行った。講師として日本栄養士会常任理事でいらっしゃる原純也先生をお招きすることができた。この研修会を通して、将来の管理栄養士像を考えスキルアップを図るだけではなく、将来ビジョンを定め、どのような能力を身に付けていくのか考えるきっかけとした。また、様々な立場の管理栄養士と議論する中で、同職種間でのネットワーク構築に繋がることにも期待した。

2. 日時および研修会概要

2020年9月26日（土）および27日（日）
新型コロナウイルス対策で、すべてオンライン（zoom）で行った。

9月26日（土） 実践栄養ケア研修会
13:30-14:00 受付
14:00-14:05 開会挨拶：畠山桂吾氏
（実践栄養ケア研究会会長・名古屋第二赤十字病院・3期生）
14:05-14:10 座長挨拶：塚原丘美先生
（名古屋学芸大学管理栄養学部管理栄養学科 学科長）
14:10-14:25 卒業生講演1 稲沢厚生病院
下川有里先生（10期生）
14:25-14:40 卒業生講演2
名古屋第二赤十字病院
要石愛加先生（5期生）
14:40-14:55 卒業生講演3 足助病院
川瀬文哉先生（大学院卒）
14:55-15:15 ディスカッション
15:15-16:35 特別講演「診療報酬と病院栄養士の将来ビジョン」
講師：原 純也先生
（日本栄養士会常任理事職域統括事業部 部長・武蔵野赤十字病院 栄養課 課長）
16:35-17:30 交流会（Zoomを用いた）
17:30-17:35 閉会挨拶：和泉秀彦先生
（名古屋学芸大学管理栄養学部 学部長）

9月27日（日） 実務者のための
栄養管理プロセス研修会
9:00-9:30 受付
9:30-9:35 開会挨拶：畠山桂吾氏
（健康・栄養研究所客員研究員・名古屋第二赤十字病院）

1) 名古屋学芸大学管理栄養学部
2) 名古屋第二赤十字病院栄養課

- 9:35-9:40 座長挨拶：立花詠子先生
(健康・栄養研究所研究員・名古屋学芸大学准教授)
- 9:40-12:20 ワークショップ
「将来ビジョン 求められる栄養士像 ～偉人から学ぶ～」
講師：原 純也先生
(日本栄養士会常任理事職域統括事業部 部長・武蔵野赤十字病院 栄養課 課長)
- 12:20-12:30 総括
- 12:30-12:35 閉会挨拶：塚原丘美先生
(健康・栄養研究所主任研究員・名古屋学芸大学教授)

3. 参加者

26日は名古屋学芸大学管理栄養学部の3年生に募集をし、35名から申し込みがあった(当日

欠席者が数名いた(人数不明))。また卒業生も別で募集し14名が参加した。

27日は名古屋学芸大学の卒業生を中心として医療機関で数年間の実務を行っている管理栄養士を募集したところ、10名の申し込みがあった。経験年数を考慮して3グループに分けた。

4. 研修会の効果

研修会終了後にアンケートを行った。27日のアンケート項目を表1に示す。問2の参加の目標は参加者によって各々違っていたが、他施設の管理栄養士との交流の目的とする群、自分の将来の管理栄養士像を考えたいという群の大きめに2つに分類できた。これは本研修会の目的と合致していた(表2)。問3の理解度の変化は、研修会前 2.3 ± 0.9 から研修会後 3.5 ± 0.5 と、有意に変化がみられた($p=0.00457$ 、vs 研修会前、Wilcoxonの符号付順位和検定)(図1)。最初

表1 27日研修会のアンケート項目

設問1 特性について(性別、職域、勤務年数、他の研修会への参加経験)
設問2 研修会に考えていた目標は何か
設問3 研修前後での理解度はどのように変化したか
設問4 最初の目標は達成できたか
自由記述(意見や感想を自由に)

表2 研修会前の目標

設問2 <u>今回、研修会前に考えていた目標</u>
● 他病院の管理栄養士さんとの交流、コミュニティを広げる 5名
● 自身の目標とする管理栄養士像、ビジョンの構築 4名
● 自身に足りないものを明確にする
● 恥ずかしがらずに発言すること
● 今後も管理栄養士を続ける上で、必要なものをより多く知るため
● 原先生や先輩方から学びを得る

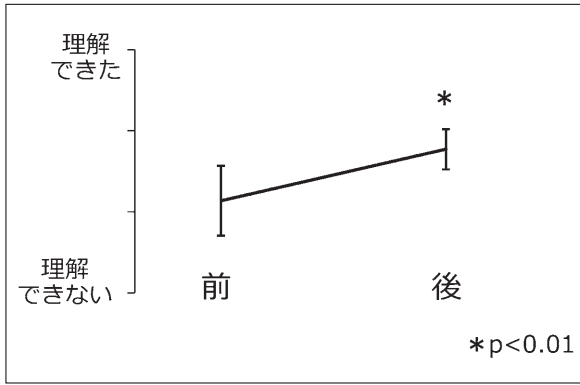


図1 研修前後での理解度の変化

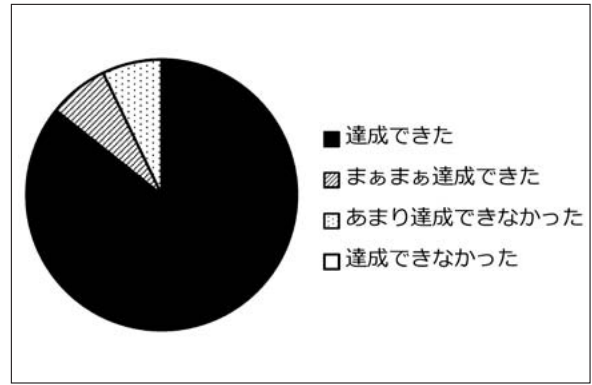


図2 設問4 最初の目標は達成できたか

表3 自由記述欄

感謝の言葉	8名
楽しかった	5名
【自由記述抜粋】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 参加費を払ってでも、参加したい充実した内容でした。今日から活かせるよう精進します。 ● 原先生始め、先輩方の考えや志に触れることができ大変勉強になりました。 ● 明日からのモチベーションにつながりました。 	

の目標の達成度については参加者のほとんどが「まあまあ達成」または「達成できた」と感じていた（図2）。自由記述に関しては、良い点、改善した方が良い点など、率直な意見を述べてもらった。概ね好評な意見であった（表3）。

5. 研修会の感想および改善点

以上のアンケートの結果から、研修前後を比較すると理解度の深まった参加者がほとんどであった。「オンラインでしたが非常に分かりやすく、有意義な研修会でした」「今回とても分かりやすかったです」「わかりやすい研修会でした。」「今回のやり方は時代にも則しており既に良い方法だったと思います。」という意見が多かった。今回は初めてオンライン研修会となり、グループワークもオンラインで行った。参加者の中にはオンラインになったことで、参加

を取りやめた者もいた。しかし、参加者の意見では「オンラインでも色々なことができることが分かったので、規模を大きくしても良いように感じた」「今回のやり方は時代にも則しており既に良い方法だったと思います。webでの参加が困難な方もいたとのことから、オンラインとオフライン（会場）のミックスが出来れば参加者もより増えるのではないかと思います」といった意見もあり、今後の開催方法についても検討課題となった。また、オンライン開催のため、交流会を設けることができなかった。しかし「実務者同士でも、交流の時間（質問会）などの時間があると嬉しいです。」「もう少し交流できて、繋がりが持てるような会があると嬉しいです。」という意見もあった。今回は、オンラインでPCに向かう時間が長くなってしまいうことも鑑み、グループワークのみの交流で、フ

リーの交流会を設けなかった。実務者同士がフリーで交流できる機会を設けてもよかったのかもしれない。

今回の研修会では概ね目的を達成することができた。実務者からは、卒後教育を望む声も多い。よって、これからも本研修会の開催を続けていきたいと考えている。

6. 謝辞

この研修会を開催するにあたり、名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究費を利用させていただきました。心より深く御礼申し上げます。